第 21 回　安佐南区回復期生活期連携推進の会

開催のお知らせ

開催日　平成 28 年 5 月 16 日（月）

場　所　安佐南区総合福祉センター　6 階会議室

公式サイト参照してください⇒ http://shakyo-hiroshima.jp/asaminami/about/riyou.html

時　間　午後 7 時～8 時４０分（9 時閉館）

内　容　テーマ：**「ヘルパーの心残り」**

発表者：東原慈光園 訪問介護事務所 田中菜穂子 様
東原慈光園 園　長　　佐々木才子 様

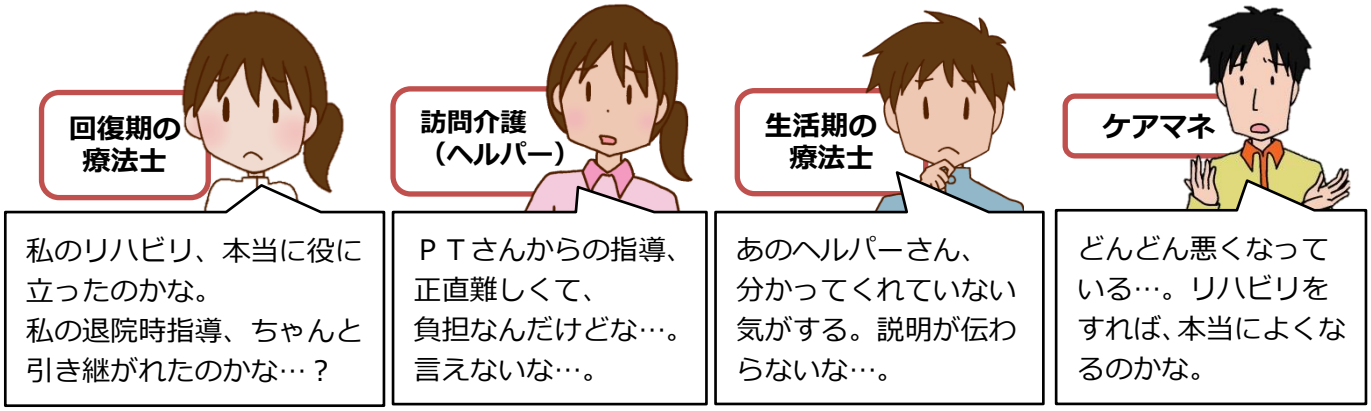
【　今回のテーマ　】

私たちの多くは、自分の仕事にプライドと自信を持っている、もしくは持ちたいと願っています。しかし、他職種から指摘されたり強い指導を受けたりすると、負担に感じることがあるかも知れません。指導する側は、指導を受ける側の現状や業務内容が分からないかも知れません。また、プロ同士の意見が対立することもあります。現実には、対立を恐れて、率直な意見交換や他職種への提案を控えてしまうことがあります。相談員やケアマネジャーは、専門職の間に立たされて頭を抱えることもあります。

今回はこの現実について、**「訪問介護」**の現場から、事例発表頂き、参加者で検討します。

- 数年前に退院した患者様は、今、どうしているのでしょうか。
- 退院した時にはできていたことが、できなくなるのは仕方のないことですか。
- 専門職同士、お互いに意見するのをどうして遠慮してしまうのでしょうか。
- リハビリ専門職の指導に疑問を感じた時に、どうすれば良いでしょうか。
- 多職種が同じ方向に向かって患者様を支援することは、どうしてこんなに難しいのでしょうか。

訪問介護従事者の、生の声を聴くことは滅多にあることではありません。私たちの業務を「本当に利用者のためになるものにする」ために、今回ほど有意義な会は二度とないかも知れません。ぜひ、自己研鑽・現場教育の機会として、皆様ふるってご参加ください。



お問い合わせ：　安佐南区回復期生活期連携推進の会 事務局　野坂寿子（ケアプランよりしま内）

電話：962-1232　FAX：850-1028　メール：nosaka@yorishima.com

第 21 回　安佐南区回復期生活期連携推進の会 開催のご報告

平成 28 年 5 月 16 日（月）19：00 より　安佐南区総合福祉センター

■ **今回のテーマ**　「　ヘルパーの心残り　」

発表者：東原慈光園 訪問介護事業所 チーフ 田中菜穂子様
東原慈光園 園　長　　佐々木才子様

回復期病棟を退院し在宅復帰された利用者Ａ様に、約５年間訪問介護サービスを提供しましたが、訪問介護従事者として、どうすればよかったのでしょうか？

心残り①　退院前カンファレンスに参加したが…

失語症の方なので、コミュニケーションの方法や工夫について専門職からアドバイスをもらっていればよかった…。でも退院前カンファレンスでは気軽に聞けない…、でも勇気を出して聞けばよかった。

心残り②　訪問介護向けのリハビリの指導を受けたが…

実際の訪問介護のサービス提供時は時間に追われて指導されたリハビリをする余裕がない…。実際の介助に合わせた介助方法の助言が欲しかった！！

心残り③　「自分でご飯を食べる」を目標にしたが…

自分の力で食事をとることを目標にしたが、家族からも通所先でも「自分で食べるように」と指導され、利用者は疲れ果てている。ヘルパーとして「時には甘えさせたい」 ＶＳ 「いや、介護のプロとして自分で食べてもらうんだ！自立支援だ！」の葛藤…。

心残り④　本人と家族の希望が違っていたが…

本人は「洗濯物をたたみたい」と意欲的だったが「家族が勝手にさせないで」と制止した。本人と家族の間に挟まれてどうしたらよいかと苦悩した。本人と家族の仲を取り持つにはどうすれば良かったか？

心残り⑤　最初のリハビリの指導を忠実に守ったが…

リハビリ専門職からの指導を忠実に守って介護していたが、徐々に体調が変化し、最初に受けた指導が合っていないのでは？と感じるようになった。でも、「専門職からの指導」は“忠実”に守った。変化に合わせて相談するべきだったのだろうか、でもなかなか介護職からは相談できない…。

心残り⑥　施設に入所されたが…

訪問介護として関わって５年。様々な事情で施設に入所されることとなった。本当に良かったのだろうか。Ａ様の望みだった、自宅での生活が支えきれなかったのではないだろうか。

Ａ様の気持ちを代弁しきれなかったのではないだろうか？

グループワークと決意表明

ケアマネジャー、回復期病院、地域の医療機関、訪問介護・通所リハ・訪問リハ・通所介護事業所、地域包括支援センター、福祉用具など、それぞれの立場のスタッフとしてこれから何ができるか、どうしていきたいか

退院をしたとしても、退院後に状況などの話をすることはできる。いつでも回復期側に聞いてほしい。

退院前カンファレンスは時間が限られているのでカンファレンス終了後に個別に時間を割いて相談ができるよう時間の幅をみた会議調整が大切。

ケアマネと訪問介護それぞれが"忙しいのだろうなぁ"などと電話、相談を遠慮しがちなので積極的な情報交換、尋ねたり、提案をしてもいい。

【 今回お集まりいただいた皆様：事業所別 】

広島市域訪問介護事業者連絡会
オムエル祇園訪問介護ステーション
ヘルパーステーションふじ川内
訪問介護がんじゅう
ニチイケアセンター中筋（訪問介護）
医療介護センター（訪問介護）
ニチイケアセンター山本（訪問介護）
生協広島介護サービス安佐南
エコール在宅介護ステーション
土谷ヘルパーステーション大町
リオン訪問看護リハビリステーション
医療介護センター（訪問看護）
緑井ガーデンハウス（訪問看護）
エコール訪問看護ステーション
リハビリ訪問看護ステーションサポート
（株）アビリティーズ・ケアネット
（株）エコール福祉用具
（医）日々野病院
（医）広島共立病院
（医）二宮内科
（医）ぎおん牛田病院
にのみやシニア・フィットネス
デイケアなごみ
デイケアそよかぜ
デイケアよりしま
上安慈光園通所介護
デイサービスぎおん
デイサービスよりしま
特別養護老人ホーム春日野園
老人福祉施設山まゆ
グループホームじこう
（株）プラスワン
（株）フランスベッド
（居）オムエル祇園
（居）なごみの郷
（居）川内の里
（居）上安慈光園
（居）いでしたケアプランセンター
（居）東原慈光園
（居）西田ケアマネ事務所
（居）ＩＧＬベルシャレー
（居）ケアセンター佐々木整形外科
（居）サンキ・ウェルビィ安佐南
（居）生協ひろしま安佐南
（居）あすか
（居）ケアプランよりしま
東原・祇園東地域包括支援センター
城山北・城南包括支援センター
サンキ・ウェルビィ福祉用具

第 21 回の参加状況：

12 職種 104 名

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・社会福祉士・介護福祉士
介護支援専門員・医療ソーシャルワーカー・支援相談員・福祉用具専門相談員・訪問介護員・介護ソフト・システム開発

今回は足元の悪い中、時間を割いてお集まりいただきありがとうございました。お忙しい中事例を提供して下さった、東原慈光園 田中様・佐々木様、本当にありがとうございました。「知らなかった」ために生じる誤解や疑問が少しずつほぐれる時、回復期と生活期との間だけでなく、生活期と生活期との間での交流や絆が一層深まり、安心して働けるようになることを強く期待しております。次回は８月に開催予定です、再び皆様にお会いできるのを心より楽しみにしております。ご協力・ご支援、そしてご指導を今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 5 月 28 日

お問い合わせ：

安佐南区回復期生活期連携推進の会 事務局　野坂寿子（ケアプランよりしま内）

電話：962-1232　FAX：850-1028　メール：nosaka@yorishima.com